

(資料・HP 告知)

肝細胞特異性造影剤を用いた背景肝の不均一性と肝機能の相関

研究責任者：医学部保健学科 放射線技術科学専攻 准教授 松島秀

研究分担者：名古屋大学医学部保健学科放射線技術科学専攻 3年 熊谷慎

1. 研究背景と目的

肝細胞特異性造影剤を用いた肝機能イメージングは、MRIによるOncologic Imagingとして有用な手法の一つです。肝機能は主に血液生化学データにより評価されていますが、肝硬変患者において形態的には明らかな肝硬変を示している症例でも、血液生化学的な肝機能は保たれている症例があり、肝の形態と肝機能は必ずしも相関しない可能性があります。このような肝機能の保持は「線維化」や「肝細胞数」「肝細胞の分散」に依存すると考えられています。近年、肝細胞特異性造影剤であるガドキセト酸ナトリウム (Gd-EOB-DTPA ; 商品名, EOB・プリモビスト) を用いた肝機能の画像化が可能となり、肝機能低下の早期検出法として期待されています。

本研究の目的は、肝細胞特異性造影剤を用いた肝機能イメージングにより、背景肝の不均一性と肝機能の相関を評価することです。

2. 研究対象

平成30年4月1日から令和4年12月1日の期間に愛知県がんセンター「MRIによるOncologic Imagingの臨床応用(2020-1-046)」の対象者となられた方。

研究対象を望まない場合は下記「問い合わせ先」にご連絡下さい。

3. 研究方法

Gd-EOB-DTPAは肝細胞にも取り込まれるMRI用の造影剤であり、造影効果は肝機能を反映することが報告されています。本研究では、造影効果を組織の造影率として検出・画像化し、この画像から背景肝の造影率とその分散を定量的に評価し、血液生化学データとの関係を調べることで、背景肝の不均一性と肝機能の相関を評価します。

本研究で使用するMRI画像および血液生化学データは、名古屋大学医学部附属病院生命倫理委員会で承認された研究課題「MRIによるOncologic Imagingの臨床応用」(研究責任者:松島 秀、承認番号:2020-0197)で使用したデータを二次利用します。また、本研究で使用するMRI画像および血液生化学データは愛知県がんセンターで取得し、愛知県がんセンター生命倫理委員会でも承認されています(研究責任者:稲葉吉隆、共同研究者:松島 秀、承認番号:2020-1-046)。本研究において、対象は肝疾患50症例とし、匿名化されたデータは「倫理的配慮」に基づいて管理

されます。

4. 倫理的配慮

使用する画像および血液生化学データはパスワードロックしたハードディスクに入れ、研究期間中は名古屋大学医学部保健学科南館 2 階松島研究室内にある鍵のかかるキャビネット内に保管されます。解析の際は、ハードディスクからパスワード管理とウイルス対策が施されているコンピューターにデータを移し、解析が終了した際にはコンピューターからデータを消去します。研究に使用したデータは 10 年間保存されます。

5. 研究期間

倫理委員会承認日から令和 5 年 3 月 31 日まで

6. 研究資金

なし

7. 本研究に対する問い合わせ・苦情の受付先

○問い合わせ先

研究責任者

医学部保健学科 放射線技術科学専攻 准教授 松島 秀

(電話 : 052-719-1562)

○苦情の受付先

名古屋大学医学部・医学系研究科

大幸地区事務統括課庶務係 電話 : 052-719-1504